



光栄の森

2020年2月 毎月1日発行 第138号
発行者 光栄プロテック 中川

2月に向けて

代表取締役 三田雅憲

厳冬の折と言いたいのですが、今年は非常に暖かい冬になっております。中国においては新型のコロナウイルスが猛威をふるっており、国内においても今日現在7名の感染者が確認されております。社員一同、ご家族様も気を付けて頂きたいと思っております。

1月に当社メインバンク主催の新春恒例の講演会に出席させて頂きました。今年はゲストに日本電産創業者の永守会長さんが登壇されるということで本当にたくさん（4000人程度）の方々が今年はおられました。永守さんは今年高期高齢をすぎたとおっしゃいましたが大変エネルギッシュで年を感じさせない大声の早口で頭の回転が早く凄みのある方に見えました。私が理解したお話を要約するとこんな感じです。

「今まで私の会社（日本電産）に入社した大卒社員8000名のデータを持っているが必ずしも一流の学校を出たものがトップになるとは限らない。（新技術開発や営業成績その他に関して）名前も知らない学校を出たものがすばらしい結果を残している。これを考えた時に、人間の能力はIQ（頭脳）よりEQ（熱意ややる気）が大切なのだと気がついた。

又、IQは高い人と低い人の差は5倍程度だがEQは100倍の差があると聞く。つまり、EQの高い（熱心さや、やる気の高い人）の方が良い仕事をやるのが分かってきた。もっと言えば、今の学校教育がそういうEQを高める教育になっていない。ブランド大学と呼ばれるところにIQが良くて入学してもそこで終わり、仕事に対してもブランド大学出身ということだけで一目置かれなんら努力もしないので、仕事も結果がでない。

だったら、学校教育を変えようと考え、私は大学を経営することにした。（京都先端科学大学）

入学しても、挨拶もろくにできない学生が多いので私の大学では挨拶を徹底している。又、退屈な授業を百年一日がごとく改善もせず、20年前のノートをただ黒板にうつし訳のわからない念仏のような授業をしている先生はみんな辞めてもらった。

新しい先生は外人1/3、実業界から1/3、熱意のある先生1/3の布陣にした。学生は卒業時にはTOEIC650点以上なければ卒業できないし、授業は国際感覚を学ぶために全て外国語で行うことにした。

今後20年で関西の有名私大を抜き東大、京大を追い越すつもりだ。」という話をされておりました。

話を聞いて一番感じたのはEQ（熱意）を持って仕事にあたることの大切さとそして、それがやがて人を動かし、周りを動かしていくことの原動力となっているということです。もちろん、熱意があれば何しても良いということではありませんが、しっかりと熱意を持ちそれに伴う様々な努力を重ねることで夢だったことや目標が現実になることを熱く語られており、改めて自己を見直す良い機会となりました。

4月以降はオリンピックイヤーということで、マクロ的に見て建築やインフラ（車輛）等の工事が半年程度ストップするという話があります。仕事が無くて工場を閉める訳にもいけないので営業部諸君が今までのお客様は当然ながら新規を含め広い仕事を適正の価格でしっかりと拾いとってくるようにしてもらいたく思います。又、工場の諸君は入荷してきた仕事に関して品質や納期をしっかりと守って頂きたいと思っております。

又、2月に当社メインバンクの会長様が大阪本社に来社されます。大変光栄な出来事だと感じております。当日は工場の視察もあるかと思っております。社員一同、会長さんが伺った際は、大きな声でご挨拶をお願いします。

少しご説明しますと当社のメインバンクK銀行さんは当社が仕事が無くなり売り上げが激減した折に必ずサポートをしてきてもらい何度となく助けて頂いて来ました。歴代の支店長も当社に目をかけて頂いており、当社にとっては大変重要な銀行さんです。

又、2月～3月にかけて本社及び千葉白井工場で食堂工事や門扉、看板、その他の工事もあります。

そして、3月末には当社の50周年記念祝賀会を行います。「おわりよければすべてよし」とのことわざ通り今期もしっかりと良い結果でおさめられるように社員一同タッグを組んで頑張りましょう。